

地域と紡ぐ防災力



北海道胆振東部地震から4年 広がりを見せる防災力

町は、厚北地域防災コミュニティセンターならやまの新設やハザードマップの改訂、再生可能エネルギーを活用した避難所への電源供給施設・設備の整備など、有事への備えを着実に進めています。町民の皆さんの理解と協力無くして、緊急時の安全確保は成り立ちませんので、住民説明会などを通じて、災害を「自分事」として意識してもらい取り組みもあわせて進めてきました。

町は8月7日、上厚真小学校をメイン会場に総合防災訓練を行いました。42世帯80人が参加し、強震時にその場で安全を確保するシエイクアウト訓練や指定避難所での段ボールベットの設置、初期消火、応急処置、炊き出しなどを体験しました。胆振東部地震から4年。出口の見えないコロナ禍にあっても、地域と共に育む「防災力」は、厚真の地に確かな広がりを見せています。



厚北地域防災コミュニティセンターならやま 改定されたハザードマップ



約80人が参加した総合防災訓練

参加者の声



上厚真自治会では、昨年11月にも上厚真小学校の3年生や保護者と一緒に地域の防災マップづくりをするなど、地域ぐるみで防災について知見を深めています。コロナ禍でお盆の時期でしたが、今回佐藤秋夫さん(上厚真)の訓練には37人が参加しました。

上厚真地区での実働訓練は、久しぶりでしたが非常に参考になりました。過去に厚真川の氾濫を経験した人も多く、防災意識は高いです。私は、日ごろから自治会の集まりで緊急時は「まず自助が大切です」と話しています。自分や家族の安全を確保し、若い人には可能であれば「隣近所の高齢者も頼むぞ」とお願いしています。今後も、日ごろからの人付き合いを大切に、皆さんと一緒に地域防災力を高めたいと思いました。

参加者アンケート(主な意見)

- ◇良かった点
- ・多くの方が参加していて防災に意識があると感じた。続けてほしい。
 - ・避難所の設営と講話のセットが、実際に災害が起こった時に十分に役立つと思った。
 - ・住民がどう関わるのか連携すべき課題がみえた。
- ◇改善・要望点
- ・各地区の人数が少なく残念です。もっと、広範囲に呼びかけては。
 - ・自分たちでできることをもっと知りたい。
 - ・どこへ行ったら良いのか分かりづらかった。

北海道胆振東部地震から4年。最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた方々のお気持ちを思うと、今なお哀悼の念に堪えず全ての御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。今でも信じがたい光景が脳に浮かびます。捜索に一縷の望みを託す家族や友人の祈り、避難されてきた町民の不安げな表情を決して忘れません。一方で、自分より他者を気に掛ける町民の姿に、生きる者としての使命感や共に歩む者の信頼が芽生え、復旧事業を加速させました。

国や北海道、厚真町施行のインフラ復旧事業は、町民のご理解とご協力をいただいた結果による達成状況と感謝します。すでに復興への取り組みにも挑戦を始めています。庁舎周辺整備や防災減災対策、省・創エネルギーなどゼロ・カーボン推進、一次産業中心のグリーン×グリーン×デジタル政策を構想し、発災当時の「悲しいまちでは終わらない」から現在は「決して諦めないまち」へと深化を遂げています。

町民が抱える不安、悩みは短期間では癒されません。明日への不安を軽減し、被災者に寄り添い誰一人も取り残さない復旧・復興を目指してためめ努力を続けます。

これまで、災害復旧事業・捜索活動にご尽力いただいた関係機関やボランティアなど全ての皆様に心より感謝申し上げます。

北海道胆振東部地震から
4年を迎えるにあたり

厚真町長 宮坂尚市朗

主なできごと(令和3年9月～)

- 令和3年
- 9月5日(日) 慰霊碑除幕式(京町・つたえり公園)
 - 10月14日(木) 北海道胆振東部地震厚真町追悼式
 - 11月3日(水) 第1回厚真にぎわい会議(令和4年1月まで全4回開催)
 - 8日(月) 厚真町文化祭(4日、展示のみ)
 - 13日(土) 上厚真小学校3年生が防災マップづくり
 - 19日(金) 公益財団法人イオン環境財団が吉野地区で桜を植樹
 - 24日(水) 厚真中学校で防災授業
 - 24日(水) 被災3町のオンライン座談会(胆振総合振興局主催)
 - 12月24日(金) 厚真地域防災コミュニティセンターならやま完成
- 令和4年
- 1月9日(日) 第74回厚真町成人式
 - 3月29日(火) 少額短期保険ハウスガードと町が森林再生に向けた連携協定締結
 - 7月30日(土) 第50回あつま田舎まつり3年ぶり開催(31日(日))
 - 9月3日(土) 北海道胆振東部地震厚真町追悼式
 - 9月6日(火) 正午のサイレンに合わせて黙とう



総合防災訓練 8月7日 上厚真小学校

日高沖で震度6強の地震を観測し、大津波警報が発令された想定で訓練を行いました。その場で身の安全を守るシェイクアウト訓練、避難所開設等訓練、個別訓練を実施しました。



1 避難開始

大津波警報発令後、地域住民の避難が始まりました。訓練の参加者は、指定避難所の上厚真小学校に直接避難したり、厚南会館から受付で検温やアルコール消毒を済ませて小型マイクロバスで同校に移動しました。予備のマスクや貴重品などを詰めたリュックサックを背負った参加者も目立ちました。



2 避難所等開設

上厚真小学校の体育館や小体育館には、未開封の段ボールベッド資材やプライベートテント、簡易トイレキットなどが搬入されました。また、新型コロナウイルス感染症の発生も想定して、校内に「グリーンゾーン」と完全防備以外の立ち入りを禁止する「レッドゾーン」を設けるなど、感染症対策が徹底されました。校庭には、避難所内に入室できないペットのための救護所も設けられました。



3 個別訓練

参加者は、搬入された資材を開封して段ボールベッドおよび感染症対策のパーティションの組み立て、簡易トイレ、プライベートテントを設営し、組み立てた段ボールベッドに横になって強度を体感しました。

また、町がこれまで撮影した胆振東部地震関連の写真や資料も展示されました。屋外では陸上自衛隊第7特科連隊第1特科大隊が炊事車両を使って300食分のカレーを調理。商工会女性部らが手作りデザートを追加して1食分ずつパック詰めし、参加者に配給しました。

また、訓練では防災講話も開催。室蘭地方気象台火山防災官の川橋和弘さんが「日本海溝・千島海溝添いの巨大地震・津波への備え」と題して講演。地震や津波の発生の仕組みや厚真町の防災などについて説明しました。

